

ほだれ祭

この珍しい、気合の入った豊年祭は *hodare* にちなんで名づけられ、杉の木で作られた長さ 2.2 メートルのペニスは約 600 キロの重量があります。ホダレには二重の意味があり、「稲の成熟」と「男性器」という意味です。

長岡郊外の栃尾エリアの集落、下伝で 3 月の第 2 日曜日に行われます。健康で幸せな子供に恵まれますようにとの願いを込めて、妊産婦さんもこれから妊産婦さんになる方も参加されています。日本の他の祭りは男根を中心としたものが多いですが、下伝のホダレは最大のものでされています。一年のほとんどの期間、樹齢 800 年の杉の木の横にある神社でホダレを保管しています。地元の言い伝えによると、この杉の木は、元々は隣に雄木がいた雌木でした。しかし、遙か昔に嵐で雄木が倒され、村の不幸と少子化の時代を迎えてしまいました。その後、村人たちは倒れた雄木の代わりに杉のほだれを作りました。その後まもなく、第一回のほだれ祭りが開催されました。

例年午前 11 時から行われているこの行事は、まず、栃尾に住んでいる女性達が、神社のほだてに供え物として、特製の数珠の紐を打ち込みます。次に、妊婦さんが参拝してお祈りをします。これらの儀式が終わると、ほだれが神社から運び出される準備が整います。

ホダレを神社から持ち出すには大人数が必要です。儀式用のロープを結びつけることから始めます。縄の重さは約 200kg です。その後、男たちは階段を下りて道端までホダレを運び、神輿に積み込んで道を練り歩きます。女性は幸運の為にホダレの上に座ったり、触ったりします。練り歩き前の神社の神社の儀式に参加できるのは地元の方に限られますが、練り歩きならお祭りを訪れた女性なら誰でも参加できます。ホダレに触れることが健康な赤ちゃんを産むための鍵であるという伝統があります。未来のお母さんたちのためだけのお祭りではありません。祭りのメインセレモニーと並行して、食べ物や小物、ゲームなどの屋台が出店しています。若い方には、くじ引き抽選で賞品をゲットしたり、縁起の良いお餅作りを楽しむことができます。大人向けには、魚を使ったお酒「かじか酒」をはじめとしたお酒の屋台が出ています。定番の地酒やソフトドリンクもあります。また、名物のジャンボサイズのあぶらげ、栃尾名物の揚げ豆腐を楽しむことができます。ペニス型のノベルティグッズも販売されています。もう一つのお土産は、この地域の特徴である「栃尾てまり」という手作りの置物です。

ほだれ祭りでは、日本の文化を楽しく学ぶことができます。

また、地域社会や、より小さく、より孤立した田舎の村に人々を集めるイベントについての洞察も得られます。

下伝は長岡駅から車で約 30 分のところにあります。